

式辞

校庭の木々にも早春の息吹が感じられる今日の佳き日、ご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を得て、平成二十六年後期卒業証書授与式を挙行できますことを、衷心より、厚くお礼申し上げます。

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは高等学校における所定の課程を終え、本日めでたく卒業の日を迎えました。高校生活を振り返って、苦しんだこと、悩んだこと、困難なことも多々あったのでは、と思います。皆さんはそれを乗り越えて、今日という日に至りました。これまでの努力に対し、心からの拍手を送るものです。また、保護者の皆様には、ご子弟の栄えあるご卒業を、心よりお祝い申し上げます。

さて、高校卒業という、人生の大きな節目を迎えた皆さんに、私の思うところを三つほど述べ、はなむけの言葉にしたいと思えます。その第一は、自分の目標をしっかりと持つことです。ある生徒は、通訳の仕事に就くことが目標だと聞きました。それは、社会に貢献できる、すばらしい目標だと思います。人は目標を持つことで、自分自身に眠るエネルギーを十分に発動させることができるのです。目標を持ち、「絶対に実現するのだ」という強い気持ちを持ち続けていってください。

第二は、本校の校訓である「日常実践」ということです。「日常実践」という校訓には、

生き方の基本ともいえるべきマナーやルールを、日々の生活の中で常に実践していくことで、人間的な成長を目指す、という意味を込めています。挨拶する、美化や整頓に努める、約束や時間を守るなど、本校で学んだことを日常実践すること、人間としての力を磨いていってください。

第三は、「いつも明るく元気であれ」ということです。本校のキャッチフレーズは「阪神昆陽は、明るく元気な君を育てます」というものです。私たちの人生は、いつも楽しいこと、嬉しいことばかりではありません。実際は、苦しいことや、辛いことも多いのが、人生です。この大きな荒れ海を航海していくために必要なのは、常に心を明るく元気に保ち、積極的に、前向きに取り組んでいくことです。

以上の三点を、今後に出る指針として贈りたいと思います。どうか阪神昆陽高等学校の卒業生としての誇りを胸に、二十一世紀をたくましく生きてほしいと願っています。皆さんの輝かしい前途に、幸多かれと祈念してやみません。

最後になりましたが、ご来賓ならびに保護者の皆様から、本校に寄せられましたご厚情とご支援に対しまして、厚くお礼申し上げます。そして、今後とも変わらぬご協力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。式辞といたします。

平成二十七年二月二十八日

兵庫県立阪神昆陽高等学校長

尾崎文雄